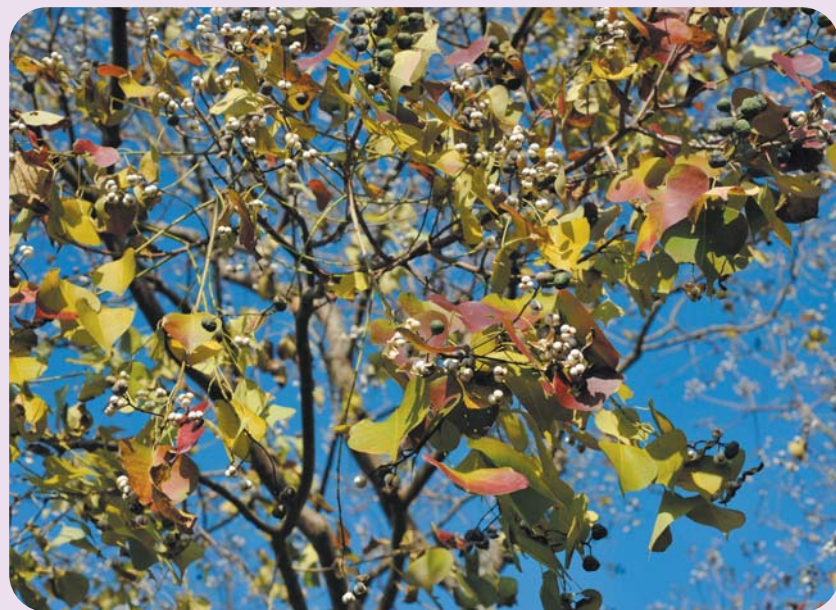


ナンキンハゼ

■名の通り故郷は中国

名が示す通り、ナンキンハゼは中国南部に自生している落葉広葉樹です。江戸時代に蠟を採取するために持ち込まれ、西日本では庭木や街路樹にもよく利用され、野生化もしています。南部町では、福里団地にナンキンハゼの並木があり、法勝寺高校跡地では



市山 味工房えびろんにて

(撮影：桐原佳介)

見事な高木が見られます。ス

ペード型の葉は、晩秋から徐々に美しく色づき、12月末には葉を落とし切ります。そして残された白い実が冬晴れの青い空に目立つ姿も楽しめます。

■白い実の恩恵

ナンキンハゼの白い実には、様々な野鳥が集まりま

す。シヨウビタキ、シジユウカラ、エナガなど我先にと小鳥たちがついばんでいくのです。冬の貴重なエネルギー源となつています。蠟を取るくらいですから、脂肪分も豊富でよく燃えるとか。生薬としても利尿効果があり、烏臼(うきゅう)とも呼ばれています。さらに、近年ネイチャークラフトの素材としても、インターネットで販売されています。例えばナンキンハゼのみを使った直径40センチのリースは約1万円。先日そのサイトをみてみたら売り切れの表示が出ていました。鳥にとつても人にとつてもたいへん利

用価値の高い木のようなです。

■雨に濡れたらアウト？

その人気のある白い実ですが、殻が開いて中身が見えるまでの間、雨が多く降ると折角の美しい実が、黒く汚れて傷んでしまいます。クラフト

素材向きの綺麗な実の採取は、天気の様子と実の開き方を読みながらチャンス伺いたいところです。実を先に入手するのは人が先か鳥が先か、お互いの観察眼が試されます。鳥の糞によって、種が運ばれ各所で増えているようなので、今後の分布の動向も気になるところですが、増えすぎて、やっかいもの扱いされないことを願っています。



ナンキンハゼの実

自然観察指導員

桐原真希

祐生会いの館【緑水湖畔】インフォメーション

(スター博士の来訪 最終)武信では「虫送り」を実演しました。舞台は、優勝旗で飾られていました。博士の挨拶の後謡曲が始まり、観客はシラケていましたが、博士は正座しておられました。次に安来節の合唱が始まり、熟練のダンサーが登場するに及んで大盛況となり、博士の表情も崩れました。そのうち盆踊りとなり、12時に終演しました。次の朝菊酒を出そうと思うと、誰かが飲んでいました。午前中は法勝寺高等小学校で歓迎会がありました。いつもは会場の隅で縮み込んでいるのに、この日は来賓席に座り、光栄であるが甚だ居心地が悪いと書かれています。博士の歓迎には、多くの方々の協力がありました。祐生先生、33歳でした。



大正11年自画像

■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日 ■問合せ先：祐生会いの館 ☎66-4755